

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色をいかし、磨き合う学習活動の工夫・改善に取り組む。 ②国際化、6次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。	①ICTを活用した組織的な授業改善を進め、学習評価の改善につなげる。 ②カリキュラムの修正・見直しを進め、農業科・商業科の充実した教育課程を模索する。	①ロイロノート等を活用した授業計画を作成し、学習活動の充実・改善に向けた相互授業計画や研究授業・研究協議を充実させる。 ②カリキュラムの見直し等の検討を進める。	①ロイロノート等の研修会を年3回以上実施できたか。 生徒による授業評価で授業のあり方や学習状況について改善が見られたか。 ②各教科における具体的なカリキュラムの検討が進められたか。	①ロイロノート研修会をこれまでに2回開催することができた。相互授業見学や授業観察期間を通して授業改善に向けた取り組みが進められた。 ②令和8年度入学生に向けた国語科、商業科カリキュラムの一部変更を行った。	①第1回生徒による授業評価アンケートの結果を2学期以降の授業改善につなげられるよう取り組みを促していく。 ②各教科におけるカリキュラム見直しやその必要性の有無についても検討する必要がある。	①②授業評価のアンケートを生かし、時代に即した教育活動を推進して欲しい。 ①課題研究発表会では、生徒が主体的に課題を捉え、積極的に参加し、学ぶ姿勢が、十分評価できる。素晴らしい。今後も、充実した探究学習を続けて欲しい。 ①教員同士の相互評価は難しいと思うが、相互授業見学により先生方が研修できる取組は重要と思う。是非、推進して欲しい。	①研修会等を通して授業作りから授業評価、学習評価について考える機会を作ることができた。また、相互授業見学等の機会を活用し改善点や課題等を職員間で共有することができた。生徒による授業評価アンケートの活用については不十分な点があるため検討が必要であると思う。 ②令和8年度入学生に向けたカリキュラムの一部変更を行うことができた。	①相互授業見学や校内研修等により、授業改善の取組を継続していく必要がある。生徒による授業評価の有効な活用方法を検討する。 ②カリキュラムの見直しは継続的にやっていく。
2 生徒指導・支援	①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。 ②責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒主体の活動を充実させる。	①生徒一人ひとりの悩みや不安について、SCやSSWなどの専門家と積極的に情報共有し、より一層、安全で安心して学校生活を送れる環境を構築する。 ②生徒が自主的・積極的に活動できるような指導体制を構築する。 ②農商メディアセンターを授業において、調査・探究で活用しやすい施設となるよう整備していく。	①教員による生徒の観察の他、かながわサポートドックのアンケートにより、早期にSCやSSWと生徒を繋げ、生徒の不安や悩みの解決に結び付ける。 ②生徒が活動しやすい環境整備と職員の意識改革を図る。 ②農商メディアセンターを利用者が使いやすいようにサイト集としてまとめる。	①生徒の悩みや不安に対して、職員が適切に対応することができていたか。 ①カウンセリングの必要な生徒とSC及びSSWとの面談をスムーズに行うことができたか。 ②各種行事運営等で生徒が連携して積極的に活動することができたか。 ②利用冊数、来館者数、利用する科目数を前年度以上とすることができたか。	①学年の職員及び教科担当職員が、生徒に寄り添って学校生活や学習の悩みについて聞くことができた。 ①SC及びSSWとの面談を多くの生徒が受けることができ、不安を取り除くことに繋がっている。 ②生徒が積極的に活動できる環境整備と意識改革が図れたとは言えないが、多くの先生方の協力でいろいろな活動が遂行された。メディアセンターの利用については有効的に定着している。	①1学年については、人間関係の構築に未熟さを感じる。コミュニケーションを向上させるために必要な声掛けを継続的に行う。 ①SC、SSWとの面談希望者が多く、受診できる生徒、保護者が限定されてしまう。 ②各種行事運営等で生徒間の連携及び生徒と担当職員との連携が把握しにくい場面が見受けられた。ペーパーレスが一般化される中で、内容の伝達方法(クラスルームやチャットなど)の明確化と定着を図ることが必要と思われる。	①多様な背景を持ち、多様化する生徒の実態があるなか、サポートドックの取組は素晴らしい。SCやSSWと連携し、生徒の不安を解消して欲しい。 ②農商MCの取組は素晴らしい。今後も続けて欲しい。 ②学校祭は毎年、大勢の来場者を迎えている。様々な学校行事で、生徒が主体的に取組み協働する機会として、互いに学び高められるよう、今後も教育活動に留意して欲しい。	①かながわサポートドックの実施により、生徒に対してSC、SSWにつなげることができた。また、教員による面談や声掛けも含めて、生徒の不安の一部を取り除くことができた。 ②学校行事の運営については定着してきたが、生徒が主体的に活動できる環境整備と意識改革が課題である。 ②多くの教員の協力で各種活動が遂行されているが、部活動への理解が課題である。 ②メディアセンターの利用については利用科目や来場者数が増加し定着している。	①かながわサポートドックでは注意を示さなかった生徒に対しても、教員による生徒の観察を怠らず、生徒の不安を見逃さないように心がける。 ②各種行事運営等で生徒間の連携及び生徒と担当職員との連携方法を再度検討する。 ②ペーパーレスが一般化される中で、内容の伝達方法(クラスルームやチャットなど)の明確化と情報共有の体制構築を少しずつ進めていきたい。
3 進路指導・支援	①社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推	①生徒が地域や社会の一員としての自覚を持ち、専門性を持つ産業人としてより良い社会の実現に	①高校での学びや経験をとおして、生徒が社会人として必要な能力を自ら伸ばそうとする意欲を育むため、	①各学年の特性や学習活動の状況等に応じ、キャリア・パスポートを効果的に活用することができたか。	①学習活動や各種の学校行事について目標を定め、見通しを持って取り組ませるとともに、適切なタイミン	①あいさつや身だしなみなどに課題のある生徒も散見される。生活指導グルー	①専門学科高校として、地域産業のスペシャリストの育成等、社会のニーズに応じた人材育成を充実させて欲しい。	①キャリア・パスポートの活用推進には一定の成果が見られた。一方、その意義についての理解は、教職員・生	①自身の学びや成長を振り返り、課題を可視化することでこれからの学びや将来の展望を

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	<p>進める。</p> <p>②キャリア教育の充実を図り、高い専門性を持つスペシャリストを育成する。</p>	<p>貢献していこうとする意欲と態度を育む。</p> <p>②生徒が見通しを持って主体的に進路活動に取り組めるよう、進路支援体制の充実を図る。</p>	<p>キャリア・パスポートの活用を推進する。</p> <p>②進路相談体制の拡充を進めるとともに、教職員の進路指導に関する知識・スキルの向上を図るため、校内研修を実施する。</p>	<p>①生徒に社会人として必要とされる基礎的なビジネスマナーが身に付いているか。</p> <p>②進路相談体制の拡充が図られたか。</p> <p>②実践的なキャリア教育研修を実施することができたか。</p>	<p>グで振り返りをさせるなど、キャリア・パスポートを効果的に活用することができた。</p> <p>②進路室当番による職員の常駐化を進め、休み時間等生徒がいつでも気軽に進路相談に来られる体制を整えた。また、ClassroomなどICTツールを活用した相談体制の充実を図ることができた。</p>	<p>ブや各学年団とも連携し、将来の社会人生活に対する意識を高め、ビジネスマナーの定着を図りたい。</p> <p>②総合型選抜や一般選抜で大学進学を目指す生徒が増加傾向にあることから、大学入試に関する実践的な教職員研修の実施が求められる。</p>	<p>②キャリア・パスポートの有効活用は素晴らしい。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路に対してきめ細やかに対応し、希望に沿った進学・就職の実績を上げている点も高く評価されるべきものである。</p> <p>②先生方の努力には限界がある。進路支援員の配置を要望し、進路指導体制の充実を図って欲しい。</p>	<p>徒ともにまだ温度差がある。</p> <p>②生徒がいつでも気軽に相談できる進路室を、目指し、室内レイアウトの見直しや配架資料の充実等も進め、相談体制の充実・改善を図ることができた。</p> <p>②大学入試の指導・支援に関する教職員研修を実施することができた。今後も大学進学希望者の増加が見込まれることから、入試に関する研修の継続的な実施が求められる。</p>	<p>描く力を育むキャリア・パスポートの意義について、丁寧に説明し、さらなる理解を図っていく。</p> <p>②多様化が進む入試制度に対応し得る実践的な指導力を身に付けられるよう、外部の専門家とも連携しながら校内研修の充実を図る。</p> <p>②進路支援体制のより一層の拡充を図るため、進路支援員の配置要望については検討を進めていきたい。</p>
4	<p>地域等との協働</p> <p>①農業科や商業科の専門教育活動について積極的に地域に広報し、PRするとともに、魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>②農業科、商業科それぞれの高い専門性の知識と技術をいかしつつ、社会に貢献することができる生徒を育成する。</p>	<p>①農業科・商業科における専門的学びの魅力を広く発信し、専門教育の魅力をPRしていく。</p> <p>②地域の特性をいかした地域協働や産学連携等に積極的に参加し、地域への貢献をとおして生徒の育成に繋げる。</p>	<p>①学校PRの手法の検討と見直しを行い、内容の充実を図り、本校の魅力を効果的に伝えていく。</p> <p>②地域の幼小中学校や地域団体との連携(見学・体験学習・企画参加等)を深め、地域から求められる学校を目指す。</p>	<p>①学校説明会の依頼実績、学校説明会・体験入学等の参加率やアンケート集計内容等の実績を検証することができたか。</p> <p>②地域からの依頼実績や地域が求める協働の機会拡大に努められたか。</p>	<p>①学校案内パンフレット等の従来の手法に加え、メディア等への投げ掛けを積極的にを行い、広報内容の充実を図ることができた。</p> <p>②幼小中学校からの体験や説明会、地域の祭事等、多くの依頼を受けている。また今年度は、本校生徒が企画した体験学習を提供することができた。</p>	<p>①ここまで手法を継続的に行うと同時に、新たなPR方法について検討していく。</p> <p>②依頼側のニーズ(日程や要望等)と学校側のミスマッチにどう対応していくかについて検討していく。</p>	<p>①平塚農商高校の学校説明会や体験入学は分かりやすく、中学生が参加することで、興味や関心を持つことが多いと思う。</p> <p>②既に多くの事業を展開し、地域から好評であり、生産物の人気も高い。先生方も大変と思うが、これからも引き続き、地域への貢献と学校PRを続けて欲しい。</p> <p>②特に富士見公民館の小学生対象のフラワー教室は好評で、意義の高いものであった。これからも取り組んで欲しい。</p>	<p>①メディアへの投げかけによる地域広報誌への掲載や、テレビ取材を受け、広報の充実を図ることができた。今後も継続的な投げかけを行い、更なる広報活動につなげたい。</p> <p>②生徒を主体とした地域の幼小中学校との交流や体験学習を提供することができた。今後も依頼側のニーズに対応した内容を提供できるよう、工夫したい。</p>	<p>①メディア等への投げかけについて計画することで、取材の機会を増やす努力をしたい。</p> <p>②依頼側のニーズを踏まえ、本校生徒にとってより教育効果が高まる取り組みとなるよう、内容を検討していく。</p>
5	<p>学校管理 学校運営</p> <p>①信頼と期待に応える学校づくりを推進するため、事故・不祥事防止を徹底し、教職員の意識醸成や校内環境及び組織体制の整備をする。</p> <p>②安心して快適な教育環境の整備のため、生徒と向き合う時間を確保するための教員の働き方改革の実現と、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。</p>	<p>①定期的な不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。</p> <p>②ICTを活用した校務の効率化と勤務時間を意識した業務や会議内容を精選する。</p> <p>②災害特性を踏まえた避難訓練及び危機管理マニュアルに基づいたチェック体制を着実に実施する。</p>	<p>①不祥事防止研修会等を計画的に実施し、情報共有する。また、報告・連絡・相談を円滑に行い、不祥事防止に努める。</p> <p>②職員一人ひとりが勤務時間を意識するとともに、校務の効率化を図る。</p> <p>②生徒・職員対象のDIG研修や計画的な防災避難訓練を実施する。</p>	<p>①事故・不祥事件数ゼロを達成したか。</p> <p>②勤務時間後の退勤を促すとともに、自己研鑽や教材研究に向けた時間を確保することができたか。</p> <p>②生徒・職員対象の災害特性を踏まえたDIG研修や計画的な防災避難訓練の実施により、防災意識を高めることができたか。</p>	<p>①不祥事防止研修会を計画的に実施し、情報共有に努めることができた。</p> <p>②働き方改革の推進のため、衛生委員会によるアンケート調査を実施することができた。</p> <p>②防災マニュアル見直し、防災物品の点検整理を行った。5/29日訓練を行い、災害発生時の職員・生徒の行動の確認を行った。</p>	<p>①事故や不祥事の未然防止に向け、教職員の意識醸成の定着に向けた、新たな取組を検討していく。</p> <p>②働き方改革の実現に向け、教職員からの意見集約と実現に向けた協議を進めていく。</p> <p>②帰宅地別避難訓練実施に向けて、調査及び立案中である。</p>	<p>①今後も事故や不祥事防止に努めて欲しい。</p> <p>①老朽化した施設・設備については生徒たちの学習活動に支障のないようにして欲しい。</p> <p>②教員の働き方改革について引き続き推進して欲しい。</p> <p>②災害や火災などは必ず起こると考え、生徒の安全を第一に考えるべきである。地域住民の避難誘導等についても、市との協議等を進めるなどして、限りある備蓄品や施設において、学校がとれる対応策を想定しておいて欲しい。</p>	<p>①事故防止を目指した活動を通じ、職員の意識が向上することができた。引き続き事故防止活動を続けるとともに、活動がマンネリ化しないように工夫していく。</p> <p>②帰宅地別避難訓練を実施した。今後、プログラムのさらなるブラッシュアップが必要である。3年間で計画的にさまざまな災害を想定した訓練を行う必要がある。担当学校行事は、各教員が責任をもって運営し、滞りなく実施できた。</p>	<p>①職場内のヒヤリハット事例を共有するなど、身近で印象に残る活動により事故防止意識の高揚と事故防止に関する知識の修得を促進する。</p> <p>②コミュニケーションを密にし、協力し合って運営に当たれるようにチームビルディングを行う。</p>